

平成26年度第1回鳥取県和牛産肉能力検定委員会概要

日 時 平成26年7月10日(木)午後1時30分～午後4時00分
場 所 東伯郡琴浦町松谷606 鳥取県畜産試験場
出席者 河本委員、相見委員、長谷川委員、門木委員、高橋委員、広沢委員、山下委員、
尾古委員、田中委員、天野委員、木嶋委員、宮崎委員、小西委員、谷口委員、
中山委員
畜産課 野儀係長
事務局 畜試 岡垣場長、田淵室長、小江研究員

内容

- 1 鳥取県和牛産肉能力検定委員会の委員長選出について
→河本委員を委員長とする。

説明等

- ・7月から新しく検定委員を任命させて頂いた。委員の任期は2年。今回から女性の方にも委員に加わって頂くこととなった。
- ・委員長を選出は鳥取県和牛産肉能力検定委員会規約の第5条より互選により定めることとなっている。

推薦等

- 県域の状況が分かる方ということで、公益社団法人鳥取県畜産推進機構の河本課長が適任だと思う。
→河本委員を委員長とする。

2 協議事項

- 議題1 平成25年度直接検定第4群「麗美福」及び第5群「隆福也」の選抜・保留について
→「麗美福」を直接検定合格とする。
「隆福也」を直接検定合格とする。

説明等

「麗美福(れみふく)」

- ・平成25年5月12月生。血統は「勝安波-安福久-勝忠平」。大山町産
- ・発育+1.3σ。美点は発育、体深、内腿、骨締まり。惜しい点は体幅、肩付、尻型。
- ・母牛の産子成績は「天保院斗」「百合茂」「百合茂」「勝安波」「百合茂」「勝安波」の雌、去勢、去勢、去勢、去勢、雌産子で枝肉重量454kg、620.8kg、593.3kg、442.8kg、487kg、357.6kg、ロース芯面積85cm²、99cm²、90cm²、65cm²、71cm²、45cm²、BMS No.11、12、11、12、10、10。
- ・優良遺伝子領域は枝肉重量1領域、BMS 4領域保有。

意見等

- 良いと思う。ちなみに、この牛の兄弟というのは残っているのか。
→れみの9番目、12番目、13番目の産子が雄牛としています。
- 体型的には好きではないが、産子成績は魅力あると思う。
- 「百合茂」は何頭かいるが、「勝安波」は1頭だけである。

- ◎「麗美福」を直接検定合格としてよろしいか。
→異議なし。

「隆福也（たかふくなり）」

- ・平成25年7月20月生。血統は「隆之国一福之国一福桜（宮崎）」。鳥取市河原町産
- ・発育+0.7σ。美点は発育、体伸、体深、尻幅、内腿、乳徴。惜しい点は肋張り、肩後充実、肩端。
- ・母牛の産子成績は「鶴丸3」「勝安波」「北之庄」の雌、去勢、雌産子で枝肉重量407.6kg、493.9kg、389.4kg、ローズ芯面積69cm²、59cm²、62cm²、BMS No.11、12、12。
- ・優良遺伝子領域は枝肉重量2領域、ローズ芯面積2領域、BMS 2領域保有。

意見等

- オレイン酸向上の目的で造成された牛とのことだが、そのオレイン酸能力の数字はどのくらいか。
→オレイン酸の期待育種価2.5。県内の平均値が0.67なので非常に能力が高い。「福之国」はオレイン酸能力高く、その流れの「隆之国」を種付けして造成した牛。
 - 枝肉重量が小さいが、大きい母体が県内には多いのでよいのではないか。
 - 初産の時に使える牛は必要。小さくても中身で期待されるものを持ちあわせている。鳥取にはあまりそういう牛がいないので良い。
 - 枝肉成績の良い牛は全国にたくさんいる。反対ということではないが、親の成績に頼りきるのも危険。
 - 「鶴丸3」「北之庄」とはどういう牛か。
→いずれも谷口畜産で繋留していた但馬系種雄牛だが、すぐに廃用している。
 - 「百合茂」や「百合白清2」の次に何を使うか。そうした時に「隆之国」の血統の牛は非常に使いやすい。また大きい母体が残った時に、この「隆福也」は使いやすい。
- ◎枝肉重量の期待育種価低いが、県内の大型の雌牛に交配すれば良い。産子成績もBMSNo.11以上が3頭出ている。今後「百合白清2」の雌牛が残ったあとに使える牛という考えもある。「隆福也」を直接検定合格としてよろしいか。
→異議なし。

議題2 平成26年度直接検定第2群及び第3群の選定について

- 「晴国」は導入しない。
- 「幸百合」は再度検定委員会で協議する。

説明等

「晴国（はるくに）」

- ・平成26年1月7月生。4産目。血統は「隆之国—安福久—平茂勝」。大山町産
- ・発育+0.5σ。美点は被毛、皮膚、乳徴。惜しい点は体深、肩端、肩の付着、肘後、体上線。
- ・期待育種価は枝肉重量は平均以下、ロース芯面積は1/4以上、脂肪交雑は1/10以上。
- ・母牛の産子成績は「隆之国」「百合茂」「百合茂」の雌、去勢、雌産子で枝肉重量458.9kg、455.2kg、326.0kg、ロース芯面積72cm²、60cm²、49cm²、BMS No.12、8、10。
- ・優良遺伝子領域は枝肉重量1領域、BMS 1領域保有。母の優良遺伝子領域が子に移行していない。しかし、枝肉重量の1領域は藤良系の増体遺伝子CW3を含む領域であり、大きな産子を生産する可能性はある。

「幸百合（さちゆり）」

- ・平成26年3月25月生。16産目。血統は「百合茂—第7系桜—平茂勝」。鳥取市産
- ・発育+1.0σ。美点は発育、体伸、尻幅、皮膚。惜しい点は体深、肩端、肩付着、肘後、糊口。
- ・期待育種価はバランスがとれている。ロース芯面積及び脂肪交雑は1/10以上。
- ・母牛の産子成績は「平茂勝」「平茂勝」「平茂勝」「安福久」の去勢、去勢、去勢、去勢産子で枝肉重量498.4kg、626.1kg、543.0kg、452.2kg、ロース芯面積62cm²、66cm²、70cm²、72cm²、BMS No.4、11、10、6。
- ・優良遺伝子領域はBMS 4領域保有。

意見等

「晴国（はるくに）」「幸百合（さちゆり）」に対する共通意見

- 2頭とも微妙な牛。悪くないといった印象。
- なかなか難しい。「隆之国」や「百合茂」産子が多いのか。
 - 「隆之国」産子は「隆福也」の1頭のみ。「晴国」は産肉能力向上及びオレイン酸能力向上の目的で造成した牛。「幸百合」の母、「第7さちこ」はBMSNo11, 10の産子成績を出しているというところで産肉能力改良の目的で基礎雌牛にした牛。

「晴国（はるくに）」に対する意見

- 結論から言うと魅力を感じない。牛がだんだんゆるくなっている中で、さらに牛が壊れるのではないかと不安に思う。中身を期待して造るのであれば、枝肉を割るまで分からないと思うが、種雄牛にしてこういう肩の牛が世の中に出てくると思うと、それを修復しないといけないうちに、どういう手段を使えばできるのかということが非常に心配である。股が白い牛は、期待に応えたことがないという気もするし、やめた方が良くと思う。
- 牛を見たが、相当肩が悪い。特に肩の上の付着が悪い。仮に後代検定の成績が良くても使える牛にはならないと思う。
- 肩のあたりが良くないので、使って頂けるのかという不安もあるが、ただし、基礎雌牛から産まれた産子なので県としての考えを聞きたい。
 - 平成24年度当時は産肉性を重視するという中で、このような産子成績が出ているということで基礎雌牛に指定させて頂いた。その中で「隆之国」を付けて造成した牛に

なる。今後、「百合白清2」の母牛が増えてくる中で「福之国」のような県内にない系統で種雄牛を何頭か造っていきたいという考えはある。ただ肩が悪いといった部分は、我々としてもいいようがないところではある。

○母の産子成績で枝肉重量が小さいというのは印象が良くない。見あわせた方が良いと思う。

◎肩の付着や枝肉重量が小さいといった意見や中身を見ないと分からないという意見もあったが、みなさんの意見をまとめると「晴国」は購入しないということによろしいか。

→異議なし。

「幸百合（さちゆり）」に対する意見

○3ヶ月齢ということで若い。足長にみえる印象。また糊口で若干口の周りが白い。

○3ヶ月齢なので分からない。母の産子成績をみると枝肉重量はかなり取れる牛なのかなと思う。

○写真で見ると、足長、つめが薄い。立ったような牛にみえる。月齢が若いので何とも言えない。糊口とかあまり遺伝して欲しくないところもある。産歴16産目ということで年齢との相関関係をどうみるかだと思う。

○以前の検定委員会資料の写真を見ると母である「第7さちこ」の体型はよかった。体上線や深みもあった。月齢が若いので、もう少し飼ってあげたい気がする。

○試験場の意見を聞きたい。

→この牛は産肉性重視で基礎雌牛に認定し、「百合茂」を交配してできた牛。母の枝肉成績をみると枝肉重量もとれるし、また期待育種価も高い。しかし、百合茂の種雄候補牛が増えてきており、しかも百合白清2という能力の高い牛ができてきた今となつては、百合茂は難しいのかなと考えている。

○まだ3ヶ月齢ということで判断ができない。次回の検定委員会で再度協議したい。早めに協議してほしいという要望もあり、今回の検定委員会の議題に入れたが、評価できる月齢になって、再度判断させて頂きたい。

○その時は、いい写真を撮ってきてほしい。

◎通常見てもらう5ヶ月くらいで再度検討するでよろしいか。

→異議なし。

議題3 現場後代検定終了に伴う「福増」及び「安美津」の選抜・保留について

→「福増」を現場後代検定合格とする。

「安美津」を現場後代検定不合格とする。

説明等

「福増」。

・平成21年2月24月生。血統は「安平吉一糸松波一福栄」。

・鳥取市青谷町産

- ・直接検定 発育+0.3σ、DG1.13。
- ・母牛「かつき5」は非常に能力高い牛。その当時、脂肪交雑において県内トップだったと記憶している。産子成績は「重安福」「20安平」「安福2002」の雌、雌、去勢で枝肉重量443.1kg、381.5kg、485.6kg、BMS No.12、11、8。
- ・現場後代検定27頭の成績。枝肉重量466.3kg、ロース芯面積64.1cm²、バラ厚7.9cm、皮下脂肪2.3cm、歩留まり75.1%、BMSNo.7.8。
- ・「勝安波」のBMSNoは6.6なのではるかにそれを越える成績。ロースも極めて大きい。光ファイバによるオレイン酸割合は52.2で、平均程度であった。
- ・育種価は後代検定開始時の期待育種価を大幅に上回る結果となった。
- ・一般社団法人家畜改良事業団（以下「事業団」）との共同種雄牛であり、事業団の可否は7月29日に決まるが、成績としてはトップテンに入るくらいの上位と聞いている。
- ・枝肉写真をスライドで提示。ロース芯面積の大きさや形がよく、枝肉のつくりが良い。

意見等

- 枝肉のつくりも良いし、肉量もあるので、子牛が上場されれば購買しても良い。
 - 子牛の頭数が出てないので、判断しにくいところもあるが、枝肉成績を見る限りでは良いと思う。ただ血統が「安平吉」ということで、繁殖農家としては、使いにくいところもある。これから勉強していきたいと思う。
 - どこあたりが使いにくいでしょうか？
→実際使ったことがないので、どんな牛が出てくるかが不安
 - 残さないといけない牛だと思う。
 - 血統に「平茂勝」、「安福久」が入っていない牛であり、血統的背景を考えるとめずらしい牛。使い勝手が良いかは分からないが、この成績で落とすことはないと思う。
- ◎これまでの最高の検定成績であり、選抜としてよろしいか。
→異議なし。

「安美津」。

- ・平成21年8月16月生。血統は「安福2002－美津福－熱神」。
- ・東伯郡北栄町
- ・直接検定 発育+0.2σ、DG1.16。
- ・産子成績は「北仁」「北国茂」「北福内」の去勢、雌、去勢で枝肉重量439.0kg、364.9kg、505.5kg、BMS No.7、8、9。
- ・現場後代検定18頭の成績。枝肉重量427.7kg、ロース芯面積55.2cm²、バラ厚7.9cm、皮下脂肪2.7cm、歩留まり74.1%、BMSNo.6.2。
- ・光ファイバによるオレイン酸割合は53.5で、県内の平均より若干高いくらい。安美津にはオレイン酸の改良も期待していたが、その期待どおりにならなかった。
- ・育種価は後代検定開始時の期待育種価を大幅に上回る結果となった。
- ・今年の冬頃から脂肪壊死を患い、何とかがんばってきたが、8月4日（月）に本牛は死亡してしまった。今現在、精液本数は2000本弱。

意見等

- 合格不合格を決めるのは難しい
 - IARS保因牛でもある。
 - 精液も確保してあるし、牛も死んでるが、合格不合格を決めないといけないのか。いいところはありますか。
→産子も小さいし、IARS保因牛ゆえ使いにくいと感じている。
 - 不合格で良いのでは。
 - 出番はないと思う。
 - みなさんの意見のとおりだと思う。検定前の期待育種価がかなり低いのですが。
 - 本当は試験種付けする予定ではなく、「増尾安福」の試験種付けを行う予定だった。しかし、体型悪く却下となり、その時、代わりに向かった牛であった。後代検定成績ではBMS No12が出てる。平均BMSNo6.2は「福増」「百合白清2」が出る前なら良い成績。
- ◎安美津を不合格としてよろしいか。
→異議なし。

議題4 平成26年度の試験種付けについて

- 10月から「麗美福」の試験種付けを行う。(事業団との共同実施)
- 「零実緒」は育成解除とする。

説明等

- ・今年度は4月、10月、1月からの試験種付けを計画している。4月からの試験種付けは「関5双葉3」に決定し、既に終了している。今回の協議は10月からの試験種付けをどの種雄候補牛で行うかについて。また事業団との共同実施となっている。
- ・期待育種価は4頭とも脂肪交雑については1/10以上となっている。
- ・母牛の産子成績は「零実緒」、「麗美福」については6頭とも脂肪交雑二ケタ。「桜5」は11,4,5,8「隆福也」は3頭とも二ケタ。
- ・4頭の中で牛を見ながら事業団と協議した結果、「麗美福」で行いたいという話を頂いている。

意見等

- 「桜5」、「隆福也」の採精状況は？
→練習では取れている。
- 事業団との連携について「麗美福」ということであるが、しかし、鳥取県としては単独で責任を持って独自で行いたいということか。
→そうではない。あくまで共同実施を行う。共同実施する協力種雄牛とは県と事業団が半分づつ検定成績をまとめて評価しようというもの。過去には「福増」、「野上茂」などがいる。年間3頭の試験種付けのうち、2頭は単県、1頭は事業団と協力検定となっている。
- 事業団が「麗美福」を選ぶ理由は？
→現時点で精液があるということで、「零実緒」か「麗美福」になった。「零実緒」につ

いては、すでに事業団と共同で進めている「礼美茂」が全兄弟牛といったこともあり、今回の候補牛はないだろうという意見。その中で母が同じでも父が「勝安波」である「麗美福」の方が良いという結論となった。

- 事業団と共同で行った方が良いと思う。
- 事業団も県の方も良いということであれば、「麗美福」で良いのではと思う。なぜ県の方が、「麗美福」が良いという理由は分からないが。
- 「零実緒」は首になるのか
→首になる。
→もったいない。
- 「礼美茂」で既に試験種付けを行っているということもあって、同じ全兄弟牛である「零実緒」を行うのもどうかと思っている。また種雄牛の中でも「百合茂」が増えている。現在「百合白清2」がよい成績なので、県内の母牛が増えてくると、その母牛群に「百合茂」の種雄牛というのも難しくなっている。
- 最初から分かっていたことでは。
- 貸し付けだったら良いのでは。
- 実際は、いろいろな試験をしており、まだ確立された技術ではないが、ゲノムの部分を調べた限りでは、「零実緒」は少し劣るかなということがある。また体型で言うと、「礼美茂」は深みがあるが、「零実緒」は足ながであり、タイプが異なる。
- 答えが決まったことを聞かないでほしい。やりたいようにやって頂ければと思う。

- ◎10月からの試験種付けの牛は「麗美福」でよろしいか
→異議なし。
- ◎「零実緒」は種雄牛としての育成を解除するでよろしいか
→異議なし。

3 その他

「八重勝」及び「百合風」の廃用について

→「八重勝」及び「百合風」は廃用とする。

説明等

- ・「八重勝」、「百合風」どちらも5,000本ほど確保している。またこの2～3年精液販売もほとんどない状況。この2頭の廃用についてご協議願いたい。

意見等

- 特に意見なし

- ◎廃用してよろしいか。
→異議なし。

次回開催予定

8月下旬または9月上旬

内容

- 平成25年度直接検定第6群の選抜・保留について
- 直接検定第3群の選定について
- 「百合白清2」の選抜・保留について

ほか